



SET コマンド

この章では、Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA および ONS 15600 の set (SET) コマンドについて説明します。

23.1 SET-ALMTH-<MOD2>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA) 10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、2GFC、2GFICON、CLNT、D1VIDEO、DS1、DV6000、E1、E3、E4、EC1、ESCON、ETRCLO、FSTE、G1000、GFPOS、GIGE、HDTV、ISC1、OC12、OC192、OC3、OC48、OCH、OMS、OTS、POS、STS1、STS12C、STS18C、STS192C、STS24C、STS36C、STS3C、STS48C、STS6C、STS9C、T1、T3、VC12、VC3、VT1 または VT2 の Set Alarm Threshold () (SET-ALMTH-<MOD2>) コマンドは、次のカード/ポート/チャンネルにアラーム スレッシュホールドを設定します。MXP_2.5G_10G、TXP_MR_10G、Optical Service Channel (OSC; オプティカル サービス チャンネル)、光増幅器、Dispersion Compensation Unit (DCU; 分散補償ユニット)、マルチプレクサ、デマルチプレクサ、および Optical Add/Drop Multiplexing (OADM; 光分岐挿入) です。

使用上のガイドライン 適用可能な MOD2 の値は CLNT、OCH、OMS、OTS だけです。

カテゴリ 障害

セキュリティ プロビジョニング

入力形式 SET-ALMTH-<MOD2>:[<TID>]:<AID>:<CTAG>::<CONDTYPE>,<THLEV>[,,];

入力例 SET-ALMTH-{MOD2}::FAC-1-1:1::OPT-LOW,10;

入力パラメータ

<AID>	アクセス ID (「25.1 ALL」 [p.25-2] を参照)。ヌルにはできません。
<CONDTYPE>	アラームまたは報告されたイベントの状態のタイプ。パラメータタイプは ALM_THR (MXP_2.5G_10G、TXP_MR_10G、OSCM、OSC-CSM、OPT-PRE、OPT-BST、MD-4、MUX-32、DMX-32、AD-1C、AD-2C、AD-4C、AD-1B、および AD-4B カードのアラーム スレッシュホールドリスト) です。
• BATV-EHIGH	バッテリー電圧 — きわめて高い
• BATV-ELow	バッテリー電圧 — 極めて低い
• BATV-HIGH	バッテリー電圧 — 高い
• BATV-LOW	バッテリー電圧 — 低い
• GAIN-HDEG	ゲイン未到達 — 劣化スレッシュホールド、高
• GAIN-HFAIL	ゲイン未到達 — 障害スレッシュホールド、高
• GAIN-LDEG	ゲイン未到達 — 劣化スレッシュホールド、低
• GAIN-LFAIL	ゲイン未到達 — 障害スレッシュホールド、低
• LBCL-HIGH	レーザー バイアス電流 (μA 、パーミル値)。警告スレッシュホールド — 高、警告スレッシュホールド — 低。測定値 (0.0%、100%)
• OPR-HIGH	受信パワー (1/10 μW)。測定値 (-40.0 dBm、+30.0 dBm)
• OPR-LOW	受信パワー (1/10 μW)。測定値 (-40.0 dBm、+30.0 dBm)
• OPT-HIGH	送信パワー (1/10 μW)。測定値 (-40.0 dBm、+30.0 dBm)
• OPT-LOW	送信パワー (1/10 μW)。測定値 (-40.0 dBm、+30.0 dBm)
• OPWR-HDEG	光パワー — 劣化スレッシュホールド、高
• OPWR-HFAIL	光パワー — 障害スレッシュホールド、高
• OPWR-LDEG	光パワー — 劣化スレッシュホールド、低
• OPWR-LFAIL	光パワー — 障害スレッシュホールド、低
• VOA-HDEG	VOA 減衰 — 劣化スレッシュホールド、高
• VOA-HFAIL	VOA 減衰 — 障害スレッシュホールド、高
• VOA-LDEG	VOA 減衰 — 劣化スレッシュホールド、低
• VOA-LFAIL	VOA 減衰 — 障害スレッシュホールド、低
<THLEVEL>	スレッシュホールド レベル。THLEVEL は浮動小数です。

23.2 SET-ALMTH-EQPT

(Cisco ONS 15454) Set Alarm Threshold Equipment (SET-ALMTH-EQPT) コマンドは、アラーム スレッシュホールドを設定して Network Element (NE; ネットワーク要素) でのパワー レベル モニタリングを管理します。

使用上のガイドライン なし

カテゴリ 機器

セキュリティ プロビジョニング

入力形式 SET-ALMTH-EQPT:[<TID>]:[<AID>]:<CTAG>::<ALMTHTYPE>,<THLEV>[,,];

入力例 SET-ALMTH-EQPT::SHELF-2:1::BATV-HIGH,-53.5;
SET-ALMTH-EQPT:::1::BATV-HIGH,-53.5;

入力パラメータ	
<AID>	ノードまたはシェルフのアクセス ID (「 25.24 SHELF 」 [p.25-42] を参照)。省略すると、ノードまたはノードの最初のシェルフを指定します。スルにはできません。
<CONDTYPE>	アラーム スレッシュホールド タイプ。パラメータ タイプは ALM_THR (MXP_2.5G_10G、TXP_MR_10G、OSCM、OSC-CSM、OPT-PRE、OPT-BST、MD-4、MUX-32、DMX-32、AD-1C、AD-2C、AD-4C、AD-1B、および AD-4B カードのアラーム スレッシュホールドリスト) です。
• BATV-EHIGH	バッテリー電圧 — きわめて高い
• BATV-ELow	バッテリー電圧 — 極めて低い
• BATV-HIGH	バッテリー電圧 — 高い
• BATV-LOW	バッテリー電圧 — 低い
• GAIN-HDEG	ゲイン未到達 — 劣化スレッシュホールド、高
• GAIN-HFAIL	ゲイン未到達 — 障害スレッシュホールド、高
• GAIN-LDEG	ゲイン未到達 — 劣化スレッシュホールド、低
• GAIN-LFAIL	ゲイン未到達 — 障害スレッシュホールド、低
• LBCL-HIGH	レーザー バイアス電流 (μA、パーミル値)。警告スレッシュホールド — 高、警告スレッシュホールド — 低。測定値 (0.0%、100%)
• OPR-HIGH	受信パワー (1/10 μW)。測定値 (-40.0 dBm、+30.0 dBm)
• OPR-LOW	受信パワー (1/10 μW)。測定値 (-40.0 dBm、+30.0 dBm)
• OPT-HIGH	送信パワー (1/10 μW)。測定値 (-40.0 dBm、+30.0 dBm)
• OPT-LOW	送信パワー (1/10 μW)。測定値 (-40.0 dBm、+30.0 dBm)
• OPWR-HDEG	光パワー — 劣化スレッシュホールド、高
• OPWR-HFAIL	光パワー — 障害スレッシュホールド、高
• OPWR-LDEG	光パワー — 劣化スレッシュホールド、低
• OPWR-LFAIL	光パワー — 障害スレッシュホールド、低
• VOA-HDEG	VOA 減衰 — 劣化スレッシュホールド、高

• VOA-HFAIL	VOA 減衰 — 障害スレッシユホールド、高
• VOA-LDEG	VOA 減衰 — 劣化スレッシユホールド、低
• VOA-LFAIL	VOA 減衰 — 障害スレッシユホールド、低
<THLEVEL>	スレッシユホールド レベル。THLEV は浮動小数です。

23.3 SET-ATTR-CONT

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Set Attribute Control (SET-ATTR-CONT) コマンドは、外部制御に関連付けられたアトリビュートを設定します。このアトリビュートは、外部制御の開始または停止のときに使用されます。アトリビュートを送信するには、RTRV-ATTR-CONT コマンドを使用します。

使用上のガイドライン

- CONTTYPE パラメータが指定されていない場合は、AID で指定された制御はプロビジョニング解除されます。
- 制御はプロビジョニング解除されてから、別のタイプの制御に再プロビジョニングされます。

カテゴリ

環境

セキュリティ

プロビジョニング

入力形式

SET-ATTR-CONT:[<TID>]:<AID>:<CTAG>[:<CONTTYPE>];

入力例

SET-ATTR-CONT:CISCO:ENV-OUT-1:123::AIRCOND;

入力パラメータ

<AID>	アクセス ID (「25.13 ENV」 [p.25-31] を参照)。アトリビュートが検索される外部制御を識別します。
<CONTTYPE>	環境の制御タイプ。ヌル値は ALL と同等です。パラメータタイプは CONTTYPE で、環境制御タイプです。
• AIRCOND	空調設備
• AUDIBLE	可聴 (ONS 15310-MA のみ)
• ENGINE	エンジン
• FAN	ファン
• GEN	発電機
• HEAT	熱
• LIGHT	光
• MISC	その他
• SPKLR	スプリンクラ

23.4 SET-ATTR-ENV

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Set Attribute Environment (SET-ATTR-ENV) コマンドは、外部制御に関連付けられたアトリビュートを設定します。

使用上のガイドライン

- NTFNCNDE、ALMTYPE、および ALMMSG パラメータを省略すると、AID で指定された環境アラームはプロビジョニング解除されます。
- アラームを別のタイプのアラームに再プロビジョニングするには、アラームをプロビジョニング解除する必要があるため、発生したアラームが解除されるまで待つ必要があります。
- NOTIF_CODE で CL を指定してもコマンドのプロビジョニングには無効です。自律メッセージにのみ有効です。

カテゴリ

環境

セキュリティ

プロビジョニング

入力形式

SET-ATTR-ENV:[<TID>]:<AID>:<CTAG>::[<NTFNCNDE>],[<ALMTYPE>],[<ALMMSG>];

入力例

SET-ATTR-ENV:CISCO:ENV-IN-1:123::MJ,OPENDR,\"OPEN DOOR\";

入力パラメータ

<AID>	アクセス ID (「25.13 ENV」 [p.25-31] を参照)。ヌルにはできません。
<NTFNCNDE>	2 文字の通知コード。ヌルにはできません。パラメータタイプは NOTIF_CODE (自律メッセージに関連付けられた 2 文字の通知コード) です。
• CL	アラームを発生させている状態が解除されています。
• CR	クリティカルアラーム
• MJ	メジャーアラーム
• MN	マイナーアラーム
• NA	状態にアラームが設定されていません。
• NR	アラームは報告されません。
<ALMTYPE>	環境アラームのアラームタイプです。ヌルにはできません。パラメータタイプは ENV_ALM (環境アラームタイプ) です。
• AIRCOMPR	エアーコンプレッサの障害
• AIRCOND	空調設備の障害
• AIRDRYR	ドライヤーの障害
• BATDSCHRG	バッテリーの放電
• BATTERY	バッテリーの障害
• CLFAN	冷却ファンの障害
• CPMAJOR	中央集中型電源のメジャー障害
• CPMINOR	中央集中型電源のマイナー障害
• ENGINE	エンジンの障害
• ENGOPRG	エンジンの動作
• ENGTRANS	スタンバイエンジン変換
• EXPLGS	爆発性のガス
• FIRDETR	火災検知器の障害

• FIRE	火災
• FLOOD	浸水
• FUELLEAK	燃料漏れ
• FUSE	ヒューズの障害
• GASALARM	爆発性ガス、有毒ガス、通気不足、またはガス モニタの障害
• HATCH	CEV ハッチ障害
• GEN	発電機の障害
• HIAIR	高エアフロー
• HIHUM	高湿度
• HITEMP	高温
• HIWTR	高水位
• INTRUDER	侵入
• LEVELCON	水準器コンバータ
• LVDADSL	セカンダリ ADSL 低電圧切断
• LVDBYPAS	低電圧切断バイパス
• LWBATVG	低バッテリー電圧
• LWFUEL	低燃料
• LWHUM	低湿度
• LWPRES	低ケーブル圧力
• LWTEMP	低温
• LWWTR	低水位
• MISC	その他
• OPENDR	ドア開放
• POWER	商用電源障害
• PUMP	ポンプの障害
• PWR-48	48 V 電源装置の障害
• PWR-139	-139 V パワー コンバータ
• PWR-190	-190 V パワー コンバータ
• PWRMJ	電源装置メジャー
• PWRMN	電源装置マイナー
• RECT	整流器障害
• RECTHI	整流器高電圧
• RECTLO	整流器低電圧
• RINGGENMJ	呼出信号発生器メジャー
• RINGGENMN	呼出信号発生器マイナー
• RTACADSL	AC または AC/ 整流器障害 ADSL 機器
• RTACCRIT	AC または AC/ 整流器障害 DCL 機器クリティカル サイト
• RTACPWR	AC または AC/ 整流器障害 DCL 機器
• RTACPWRENG	商用 AC 障害、スタンバイ エンジンが設置されたサイト
• RTBAYPWR	AC 配電停止 RT ベイ
• RTRVENG	スタンバイ エンジン検索、商用 AC 復元
• SMOKE	煤煙
• TEMP	高 - 低温度
• TOXICGAS	有毒ガス
• TREPEATER	T リピータ シェルフ
• VENTN	通気システム障害
<ALMMSG>	アラーム メッセージ。ALMMSG はストリングです。ヌルにはできません。

23.5 SET-ATTR-SECUDFLT

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Set Attribute Security Default (SET-ATTR-SECUDFLT) コマンドは、複数のセキュリティパラメータに関連付けられた、システム全体にわたるデフォルト値を設定します。

使用上のガイドライン

次のパラメータは、システム全体ですべてのユーザおよびすべての権限レベルに対して設定されます。MXINV、DURAL、UOUT、PFRCD、POLD、PINT、およびLOGIN。PRIVLVL キーワードは、特定の権限レベルに対してこれらのパラメータを設定するために使用することはできません。

次のパラメータは権限レベルベースで設定されます。PAGE、PCND、およびTMOUT。これらの値のいずれかを指定する場合は、キーワード PRIVLVL も指定する必要があります。また、これらのパラメータのいずれも指定しない場合は、キーワード PRIVLVL は使用できません。



(注)

パスワード エージングは、すべての権限レベルに対してだけイネーブルまたはディセーブルにできます。キーワード PRIVLVL は、特定のユーザ権限レベルをディセーブルにするために PAGE=0 を指定して使用することはできません。

システムレベルと権限レベルのキーワードを同じコマンド内で組み合わせて使用すると、PRIVLVL で指定された値に関係なく、システムレベルのパラメータはすべての権限レベルに対して設定されます。権限レベルのパラメータは、PRIVLVL で指定された権限レベルに対してだけ設定されます。



(注)

PAGE と PINT がともに 0 より大きい値の場合は、PINT は PAGE より小さくする必要があります。

キーワードの順序に制限はありません。キーワードを区切るのに必要なのはカンマ (,) だけです。キーワードをまったく指定しない場合、すべてのパラメータはそのままの状態です。

カテゴリ

セキュリティ

セキュリティ

スーパーユーザ

入力形式

```
SET-ATTR-SECUDFLT:[<TID>]::<CTAG>::[PAGE=<PAGE>],[PCND=<PCND>],
[MXINV=<MXINV>],[DURAL=<DURAL>],[TMOUT=<TMOUT>],[UOUT=<UOUT>],
[PFRCD=<PFRCD>],[POLD=<POLD>],[PINT=<PINT>],[LOGIN=<LOGIN>],
[PRIVLVL=<PRIVLVL>],[PDIF=<PDIF>];
```

入力例

```
SET-ATTR-SECUDFLT:CISCO::123::PAGE=45,PCND=5,MXINV=5,DURAL=30,
TMOUT=0,UOUT=20,PFRCD=NO,POLD=5,PINT=20,LOGIN=MULTIPLE,
PRIVLVL=RTRV,PDIF=1;
```

入力パラメータ

<PAGE>	パスワードエージング間隔。ユーザがパスワードの変更を求められるまでの日数。0はデフォルトでこのポリシーがオフになっていることを表します。PAGEがすべての権限レベルに対してオンになっていて、各権限レベルごとに値が指定されていない場合、デフォルトは45日になります。PAGEの範囲は20～90日です。PAGEは整数です。
<PCND>	新しいパスワードが必須になるまでに、パスワードを使用できる日数（警告期間など）。デフォルトは5日です。PCNDの範囲は2～20日です。PCNDは整数です。
<MXINV>	侵入と疑われるまでに許可される、連続した不正なセッション確立の最大試行回数（Cisco Transport Controller [CTC] から実行される「ロックアウトまでのログイン失敗数」など）。0は、このポリシーがオフになっていることを示します。デフォルトは5です。MXINVの範囲は0～10で、整数です。
<DURAL>	侵入と疑われるときに、ユーザIDがロックアウトされる時間（秒）（「ロックアウト時間」など）。スーパーユーザによってロックが解除されるまでユーザをロックアウトする場合は、DURAL=INFINITEにします。デフォルトは30秒です。DURALの範囲は0～600秒です。DURALはストリングです。
<TMOUT>	ユーザとNE間でメッセージが交換されない場合に、セッションが終了するまでの時間（分）。0は、セッションがタイムアウト（終了）しないことを示します。TMOUTの範囲は0～999分です。デフォルト値は、RTRVユーザの場合は0（タイムアウトなし）、MAINTユーザの場合は60分、PROVユーザの場合は30分、SUPERユーザの場合は15分です。TMOUTは整数です。
<UOUT>	UIDのエージング間隔（日数）。UOUTの日数が経ってもその間にユーザIDが使用されていない場合、そのユーザは次のログインのときにパスワードの変更を求められるか、または強制的にログアウトさせられます。パスワードが変更されるまでは、どのコマンドも許可されません。0はデフォルトでこのポリシーがオフになっていることを表します。UOUTの範囲は0～99日です。UOUTは整数です。
<PFRCD>	新規ユーザがNEに初めてセッションを確立するときに、パスワードの変更が必要であることを示します（「初回ログイン時にはパスワードの変更が必要」など）。デフォルトはNOです。パラメータタイプはYES_NO（ユーザのパスワードが期限切れ間近かどうか、ユーザがNEにログインしたかどうか、またはユーザがNEからロックアウトされているかどうか）です。
• NO	不要
• YES	要
<POLD>	再利用できない過去のパスワード数（「過去のパスワードの再利用防止」など）。デフォルトは1です。POLDの範囲は1～10で、整数です。
<PINT>	パスワードが変更可能になるまでの日数。PINTが0の場合、ポリシーはオフになります。デフォルトはオフです。PINTの範囲は20～95日です。PINTは整数です。
<LOGIN>	ユーザがNEにログインできる回数。LOGINの値はSINGLEまたはMULTIPLEのいずれかです。LOGINがSINGLEの場合、ユーザはログイン方法（CTC、TL1など）に関係なく、任意のユーザIDを使用してNEに一度だけログインできます。デフォルトはMULTIPLEです。パラメータタイプはUSER_LOGINSで、ユーザが同じユーザIDを使用して同じNEにログインできる回数です。
• MULTIPLE	ユーザは、同じNEに何度でもログインできます。

• SINGLE	ユーザは NE に一度だけログインできます (CTC、TL1 セッションのどちらの場合も同様)。
<PRIVLVL>	ユーザのアクセス権限。パラメータ タイプは PRIVILEGE で、セキュリティ レベルです。
• MAINT	メンテナンス セキュリティ レベル。アイドル時間は 60 分です。
• PROV	プロビジョニングセキュリティ レベル。アイドル時間は 30 分です。
• RTRV	検索セキュリティ レベル。アイドル時間は無制限です。
• SUPER	スーパーユーザセキュリティ レベル。アイドル時間は 15 分です。
<PDIF>	新旧パスワードで相違する必要がある文字数を示します。デフォルトでは少なくとも 1 文字は相違する必要があります。PDIF の範囲は 1 ~ 5 文字です。PDIF は範囲指定可能な整数です。

23.6 SET-PMODE-<STS_PATH>

(Cisco ONS 15454) STS1、STS12C、STS18C、STS192C、STS24C、STS36C、STS3C、STS48C、STS6C、または STS9C の Set Performance Mode of PM Data Collection (SET-PMODE-<STS_PATH>) コマンドはモードを設定して、Performance Monitoring (PM; パフォーマンス モニタリング) データ収集モードをオンまたはオフにします。

使用上のガイドライン プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、[表 27-1 \(p.27-1\)](#) を参照してください。



(注)

- PM モードとエンティティのステータスは、RTRV-PMODE コマンドを使用して検索します。
- Intermediate-Path Performance Monitoring (IPPM; 中間パス パフォーマンス モニタリング) の近端モニタリングは、STS パス上の OC3、OC12、OC48、OC192、および EC-1 だけをサポートします。
- 遠端 IPPM データ収集は MRC-12 カードでのみサポートされます。
- このソフトウェア リリースでは、このコマンドでサポートされるのは PM パラメータのパス (P) モードタイプだけです。つまり、このコマンドは回線 (L) およびセクション (S) モードタイプには適用されません。回線 (L) およびセクション (S) の PM モニタリングは ONS 15454 でサポートされます。また、PM データは必ず保存されます。

カテゴリ

パフォーマンス

セキュリティ

プロビジョニング

入力形式

SET-PMODE-<STS_PATH>:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>::<LOCN>,<MODETYPE>,
[<PMSTATE>];

入力例

SET-PMODE-STS1:CISCO:STS-4-1-2:123::NEND,P,ON;

入力パラメータ

<SRC>	送信元アクセス ID (「25.10 CrossConnectId」 [p.25-21] を参照)
<LOCN>	特定のコマンドに関連付けられた場所。PM モードを検索する場所を識別します。近端 PM データ収集だけがサポートされています。パラメータタイプは LOCATION で、アクションが発生する場所です。
• NEND	アクションは、ファシリティの近端で発生します。
<MODETYPE>	アトリビュート変更の結果としてエンティティまたはサブエンティティを保存する PM パラメータのタイプ。パス (P) PM パラメータだけがサポートされます。パラメータタイプは PM_MODE (PM パラメータタイプ) です。
• P	伝送パス PM パラメータ
<PMSTATE>	指定の PM モードタイプをオンまたはオフにするよう指示します。ヌル値の場合は、デフォルトで ON になります。パラメータタイプは PM_STATE (指定の PM モードタイプ [P] ステータスにする) です。
• OFF	モードをディセーブルにします。
• ON	モードをイネーブルにします。

23.7 SET-PMMODE-<VT_PATH>

(Cisco ONS 15310-MA) VT1 および VT2 の Set Performance Mode of PM Data Collection (SET-PMMODE-<VT_PATH>) コマンドはモードを設定して、PM データ収集モードをオンまたはオフにします。

使用上のガイドライン



(注)

- PM モードとエンティティのステータスは、RTRV-PMMODE コマンドを使用して検索します。
- このソフトウェア リリースでは、このコマンドによりサポートするのは PM パラメータのパス (P) モードタイプだけです。つまり、このコマンドは回線 (L) およびセクション (S) モードタイプには適用されません。

カテゴリ

パフォーマンス

セキュリティ

プロビジョニング

入力形式

SET-PMMODE-<VT_PATH>:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>::<LOCN>,<MODETYPE>,[<PMSTATE>];

入力例

SET-PMMODE-VT1:CISCO:VT1-1-1-2-2:123::NEND,P,ON;

入力パラメータ

<SRC>	送信元アクセス ID (「 25.11 CrossConnectId1 」 [p.25-25] を参照)。ヌルにはできません。
<LOCN>	特定のコマンドに関連付けられた場所。PM モードを設定する場所を識別します。近端 (NEND) PM データ収集だけがサポートされます。パラメータタイプは LOCATION で、アクションが発生する場所です。ヌルにはできません。 <ul style="list-style-type: none"> NEND アクションは、ファシリティの近端で発生します。
<MODETYPE>	アトリビュート変更の結果としてエンティティまたはサブエンティティを保存する PM パラメータのタイプ。パス (P) タイプだけがサポートされます。パラメータタイプは PM_MODE (PM パラメータタイプ) です。 <ul style="list-style-type: none"> P 伝送パス PM パラメータ
<PMSTATE>	指定の PM モードタイプをオンまたはオフにするよう指示します。ヌル値の場合は、デフォルトで ON になります。パラメータタイプは PM_STATE (指定の PM モードタイプ [P] ステータスにする) です。 <ul style="list-style-type: none"> OFF モードをディセーブルにします。 ON モードをイネーブルにします。

23.8 SET-TH-<MOD2>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) 10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、2GFC、2GFICON、CLNT、DIVIDEO、DS1、DS3I、DV6000、E1、E3、E4、EC1、ESCON、ETRCLC、FSTE、G1000、GFPOS、GIGE、HDTV、ISC1、OC12、OC192、OC3、OC48、OCH、OMS、OTS、POS、STM1E、STS1、STS12C、STS18C、STS192C、STS24C、STS36C、STS3C、STS48C、STS6C、STS9C、T1、T3、VC11、VC12、VC3、VT1、または VT2 の Set Threshold (SET-TH-<MOD2>) コマンドは、PM にスレッシュホールドを設定し、MXP_2.5G_10G および TXP_MR_10G カードにアラーム スレッシュホールドを設定します。このコマンドを使用してアラーム スレッシュホールドを設定した場合、期間は適用できません。

使用上のガイドライン

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、表 27-1 (p.27-1) を参照してください。

ルールは次のとおりです

- PM スレッシュホールドでは、場所に対してデフォルトの NEND が設定されています。アラーム スレッシュホールドでは、場所を解釈する必要がありません。
- TMPER は、アラーム スレッシュホールドには適用されません。TMPER のデフォルトは 15-MIN です。
- クライアント ポートは、SONET、レーザー、およびアラーム MONTYPE だけを受け入れます。トランク ポートは、SONET、レーザー、アラーム、FEC、OTN、および 8B10B の MONTYPE を受け入れます。

特定のカードのプロビジョニングルールについては、『Cisco ONS SONET TL1 Reference Guide』を参照してください。

カテゴリ

パフォーマンス

セキュリティ

プロビジョニング

入力形式

SET-TH-<MOD2>:[<TID>]:<AID>:<CTAG>::<MONTYPE>,<THLEV>,[<LOCN>],[<TMPER>];

入力例

SET-TH-T3:CISCO:FAC-1-1:123::CVL,12,NEND,,15-MIN;

入力パラメータ

<AID>	アクセス ID (「25.1 ALL」 [p.25-2] を参照)。すべての STS、VT1、ファシリティ、および DS1 AID がサポートされます。
<MONTYPE>	モニタ対象のタイプ。パラメータタイプは ALL_MONTYPE でモニタリングタイプリストです。
• AISSP	Alarm Indication Signal (AIS; アラーム表示信号) の秒数 — パス
• ALL	使用可能なすべての値
• BBE-PM	OTN — バックグラウンドブロック エラー — パス モニタ ポイント
• BBE-SM	OTN — バックグラウンドブロック エラー — セクション モニタ ポイント
• BBER-PM	OTN — バックグラウンドブロック エラー率 — パス モニタ ポイント (パーミル値)

• BBER-SM	OTN — バックグラウンドブロック エラー率 — セクション モニタ ポイント (パーミル値)
• BIEC	FEC — ビットエラー修正済み
• CGV	8B10B — コードグループ違反
• CSSP	制御スリップ秒数 — パス (DS3XM-12 FDL/T1.403 PM カウント)
• CVCPP	コーディング違反 — CP ビットパス
• CVL	コーディング違反 — 回線
• CVP	コーディング違反 — パス
• CVS	コーディング違反 — セクション
• CVV	コーディング違反 — セクション
• DCG	8B10B — データ コードグループ
• ESAP	エラー秒タイプ — A パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• ESBP	エラー秒タイプ — B パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• ESCPP	エラー秒数 — CP — ビットパス
• ESL	エラー秒数 — 回線
• ESNPFE	エラー秒数 — ネットワーク パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• ESP	エラー秒数 — パス
• ES-PM	OTN — エラー秒数 — パス モニタ ポイント
• ES-SM	OTN — エラー秒数 — セクションモニタ ポイント
• ESR	エラー秒数 — 率
• ESR-PM	エラー秒数率 — パス モニタ ポイント (パーミル値)
• ESR-SM	エラー秒数率 — セクションモニタ ポイント (パーミル値)
• ESS	エラー秒数 — セクション
• ESV	エラー秒数 — VT パス
• etherStatsBroadcastPkts	受信したマルチキャスト アドレス宛ての良好パケット数合計
• etherStatsCollisions	衝突する伝送パケット数
• etherStatsCRCAlignErrors	長さが 64 ~ 1518 オクテット (フレーム構成ビットを除く、ただし FCS オクテットは含む) の受信パケット数の合計
• etherStatsDropEvents	ポート レベルで廃棄された受信フレーム数
• etherStatsFragments	受信した 64 オクテット未満のパケット数の合計
• etherStatsJabbers	受信した 1518 オクテット超のパケット数の合計
• etherStatsOctets	データのオクテット数の合計
• etherStatsOversizePkts	受信した 1518 オクテット超のパケット数の合計
• etherStatsPkts	受信したパケット数の合計 (不良パケット、ブロードキャストパケット、マルチキャストパケットを含む)
• etherStatsUndersizePkts	受信した 64 オクテット未満のパケット数の合計
• FC-L	障害発生回数 — 回線
• FC-P	障害発生回数 — パス
• FC-PM	OTN — 障害カウント — パス モニタ ポイント
• FC-SM	OTN — 障害カウント — セクションモニタ ポイント
• HP-AR	アベイラビリティ率
• HP-BBE	高次パスのバックグラウンドブロック エラー
• HP-BBER	高次パスのバックグラウンドブロック エラー率
• HP-EB	高次パスのエラーブロック
• HP-ES	高次パスのエラー秒数
• HP-ESA	高次パスのエラー秒数 — A
• HP-ESB	高次パスのエラー秒数 — B

• HP-ESR	高次パスのエラー秒数率
• HP-FC	高次パスの障害カウント
• HP-NPJC-PDET	高次パスの負のポインタ位置調整カウント
• HP-NPJC-PGEN	高次パス、負のポインタ位置調整カウント
• HP-OI	停止強度
• HP-PJCDIFF	高次パスのポインタ位置調整カウントの差異
• HP-PJCS-PDET	高次パスのポインタ位置調整カウント
• HP-PJCS-PGEN	高次パス、ポインタ位置調整カウント秒数
• HP-PPJC-PDET	高次パスの正のポインタ位置調整カウント
• HP-PPJC-PGEN	高次パスの正のポインタ位置調整カウント
• HP-SEPI	使用可能時間内の SEP イベント数
• HP-SES	高次パスの重大エラー秒数
• HP-SESR	高次パスの重大エラー秒数率
• HP-UAS	高次パスの使用不可秒数
• ifInBroadcastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したブロードキャスト パケット数
• ifInDiscards	着信パケット数
• ifInErrorBytePktss	受信エラー バイト
• ifInErrors	エラーを含む着信パケット (または伝送ユニット) 数
• ifInFramingErrorPkts	受信フレーム構成エラー
• ifInJunkInterPkts	受信インターパケット ジャンク
• ifInMulticastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したマルチキャスト パケット数
• ifInOctets	前回のカウンタ リセット以降、伝送されたバイト数
• ifInUcastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したユニキャスト パケット数
• ifOutBroadcastPkts	伝送されたブロードキャスト パケット数
• ifOutDiscards	送信パケット数
• ifOutErrors	エラーのため伝送できなかった送信パケット (または伝送ユニット) 数
• ifOutMulticastPkts	伝送されたマルチキャスト パケット数
• ifOutPayloadCrcErrors	受信ペイロード Cyclic Redundancy Check (CRC; 巡回冗長検査) エラー
• ifOutUcastPkts	伝送されたユニキャスト パケット数
• IOS	8B10B — アイドル順序セット
• IPC	無効なパケット カウント
• LBCL-AVG	平均レーザー バイアス電流 (μA)
• LBCL-MAX	最大レーザー バイアス電流 (μA)
• LBCL-MIN	最小レーザー バイアス電流 (μA)
• LBCN	正規化された OC3-8 レーザー バイアス電流
• LBCN-HWT	レーザー バイアス電流
• LBCN-LWT	レーザー バイアス電流
• LOSSL	Loss of Signal (LOS; 信号損失) 秒数 — 回線
• LP-BBE	低次パスのバックグラウンドブロック エラー
• LP-BBER	低次パスのバックグラウンドブロック エラー率
• LP-EB	低次パスのエラー ブロック
• LP-ES	低次パスのエラー秒数

• LP-ESA	低次パスのエラー秒数 — A
• LP-ESB	低次パスのエラー秒数 — B
• LP-ESR	低次パスのエラー秒数率
• LP-FC	低次パスの障害カウント
• LP-NPJC-DET	低次の負のポインタ位置調整カウント、検出
• LP-NPJC-GEN	低次の負のポインタ位置調整カウント、生成
• LP-PPJC-DET	低次の正のポインタ位置調整カウント、検出
• LP-PPJC-GEN	低次の正のポインタ位置調整カウント、生成
• LP-SEP	低次パスの重大エラー時間
• LP-SEPI	低次パスの重大エラー期間強度
• LP-SES	低次パスの重大エラー
• LP-UAS	低次パスの使用不可秒数
• MS-PSC	保護スイッチ カウント
• MS-PSD	保護スイッチ時間
• NIOS	8B10B — 非アイドル順序セット
• NPJC-PDET	NPJC-PDET : 負のポインタ位置調整
• NPJC-PGEN	NPJC-PGEN : 負のポインタ位置調整
• OPR-AVG	平均受信パワー (1/10 μ W)
• OPR-MAX	最大受信パワー (1/10 μ W)
• OPR-MIN	最小受信パワー (1/10 μ W)
• OPRN	正規化された OC3-8 光受信パワー
• OPRN-MAX	OPRN の最大値
• OPRN-MIN	OPRN の最小値
• OPT-AVG	平均送信パワー (1/10 μ W)
• OPT-MAX	最大送信パワー (1/10 μ W)
• OPT-MIN	最小送信パワー (1/10 μ W)
• OPTN	OC3-8 カードの正規化された光送信パワー値
• OPTN-MAX	OPTN の最大値
• OPTN-MIN	OPTN の最小値
• OPWR-AVG	光パワー — 平均間隔値 (1/10 dBm)
• OPWR-MAX	光パワー — 最大間隔値 (1/10 dBm)
• OPWR-MIN	光パワー — 最小間隔値 (1/10 dBm)
• PPJC-PDET	PPJC-PDET : 正のポインタ位置調整
• PPJC-PGEN	PPJC-PGEN : 正のポインタ位置調整
• PSC	保護スイッチング カウント
• PSC-R	保護スイッチング カウント — リング
• PSC-S	保護スイッチング カウント — スパン
• PSC-W	保護スイッチング カウント — 現用
• PSD	保護スイッチング時間
• PSD-R	保護スイッチング時間 — リング
• PSD-S	保護スイッチング時間 — スパン
• PSD-W	保護スイッチング時間 — 現用
• SASCPP	重大エラー フレーム構成 /AIS 秒数 — CP ビット パス
• SASP	重大エラー フレーム構成 /AIS 秒数パス
• SEFS	重大エラー フレーム構成秒数
• SEFSP	重大エラー フレーム構成秒数 — パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)

• SESCPP	重大エラー秒数 — CP ビット パス
• SESL	重大エラー秒数 — 回線
• SESNPFE	重大エラー秒数 — ネットワーク パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• SESP	重大エラー秒数 — パス
• SES-PM	OTN — 重大エラー秒数 — パス
• SESR-PM	OTN — 重大エラー秒数率 — パス モニタ ポイント (パーミル値)
• SESR-SM	OTN — 重大エラー秒数率 — セクション モニタ ポイント (パーミル値)
• SESS	重大エラー秒数 — セクション
• SES-SM	OTN — 重大エラー秒数 — セクション モニタ ポイント
• SESV	重大エラー秒数 — VT パス
• UASCPP	使用不可秒数 — CP ビット パス
• UASL	使用不可秒数 — 回線
• UASNPFE	使用不可秒数 — ネットワーク パス (DS3XM-12 DS1 PM カウント)
• UASP	使用不可秒数 — パス
• UAS-PM	OTN — 使用不可秒数 — パス モニタ ポイント
• UAS-SM	OTN — 使用不可秒数 — セクション モニタ ポイント
• UASV	使用不可秒数 — VT パス
• UNC-WORDS	Forward Error Correction (FEC; 前方エラー訂正) — 訂正不能ワード
• VPC	有効パケットカウント
<THELV>	スレッシユホールド レベル。THLEV は浮動小数です。
<LOCN>	特定のコマンドに関連付けられた場所。パラメータ タイプは LOCATION で、アクションが発生する場所です。
• FEND	アクションは、ファシリティの遠端で発生します。
• NEND	アクションは、ファシリティの近端で発生します。
<TMPER>	(任意) パフォーマンス カウンタの累積時間。パラメータ タイプは TMPER でパフォーマンス マネジメント センタの累積時間です。
• 1-DAY	パフォーマンス パラメータ累積間隔: 24 時間単位。SONET PM データの場合、1 日分の履歴データだけが使用可能です。RMON 管理対象 PM データの場合、7 日間の履歴データが使用可能です。
• 1-HR	パフォーマンス パラメータ累積間隔: 1 時間単位。RMON 管理対象 PM データにだけ適用されます。24 時間の履歴データが使用可能です。
• 1-MIN	パフォーマンス パラメータ累積間隔: 1 分単位。RMON 管理対象 PM データにだけ適用されます。60 分間の履歴データが使用可能です。
• 15-MIN	パフォーマンス パラメータ累積間隔: 15 分単位。この累積間隔では、32 個の 15 分バケットの履歴データが使用可能です。
• RAW-DATA	パフォーマンス パラメータ累積間隔。カウンタが最後にクリアされたときから開始されます。RMON 管理対象 PM だけに適用されます。

23.9 SET-TOD

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) Set Time of Day (SET-TOD) コマンドは、NE のシステムの日付と時刻を設定します。年は 4 桁で入力し、時間は 24 時間制（軍用時間など）で入力します。

使用上のガイドライン なし

カテゴリ システム

セキュリティ プロビジョニング

入力形式 SET-TOD:[<TID>]::<CTAG>::<YEAR>,<MONTH>,<DAY>,<HOUR>,<MINUTE>,<SECOND>,<DIFFERENCE>][:DST=<DST>];

入力例 SET-TOD:CAZADERO::240::1998,05,08,13,18,55,480:DST=Y;

入力パラメータ	<YEAR>	現在の暦年。YEAR は整数です。
	<MONTH>	月。範囲は、01 ~ 12 です。MONTH は整数です。
	<DAY>	日付。範囲は、01 ~ 31 です。DAY は整数です。
	<HOUR>	時間（24 時間単位）。範囲は、00 ~ 23 です。HOUR は整数です。
	<MINUTE>	分。範囲は、00 ~ 59 です。MINUTE は整数です。
	<SECOND>	秒。範囲は、00 ~ 59 です。SECOND は整数です。
	<DIFFERENCE>	UTC との時差（分）。DIFFERENCE は整数です。
	<DST>	夏時間。パラメータタイプは ON_OFF で、アトリビュートをディセーブルまたはイネーブルに設定します。
	• N	アトリビュートをディセーブルにします。
	• Y	アトリビュートをイネーブルにします。

